

子ども若者の体験や学びの機会を支える助成プログラム報告書



公益財団法人

たかまつ讃岐てらす財団

Takamatsu Sanuki Tellus Foundation

てらす財団は、どこかの「誰か」ではなく、市民が「みんな」でお金を出し合ってつくったコミュニティ財団です。

学校 対象



子ども若者の体験や学びの
機会を支える
助成プログラム

申請×切
2024年6月30日(日)



助成公募

2023年度と比較すると、助成総額を80万円、各助成上限額を10万円に引き上げて公募しました。公募時期を早めたので、プロジェクトの実施期間を長くとることができました。2次募集も実施し、計6件採択、総額540,180円の助成を実施しました。2月28日までのプロジェクト実施期間が終了したので、各プロジェクトの内容や成果についてご報告いたします。

子どものためにできること

今年度、初めて高松短期大学と連携し、「ほいくのくに」という2日間の体験型のイベントで子ども達の遊び場を提案しました。予算に制限されることなく、高校生が提案した遊びを実現することができ、子ども達に思い切り遊んでもらったり、お土産にプレゼントを用意できたりしました。



学 校 香川県立高松東高等学校

助成額 100,000円

タイトル 保育探究グループによる、地域の子どもの教育を考える PRJ

プロジェクト概要

保育についての理解を深めることを目的に、高松短期大学と連携し、実際に地域の大人や子どもと関わりながら活動に取り組む。具体的には高松短期大学の大学祭において、0~5才児の遊び場「ほいくのくに」の企画・運営や、発見した地域課題の調査・研究を行う。その一連の取り組みを企画書にまとめ、コンクールに応募する。



また、保育とビジネスを融合させた企画を検討し、様々なコンクールに出場した結果、上位入賞等の実績が得られました。(日本政策金融公庫「高校生ビジネスプラングランプリ」四国地区大会出場、「全国デザイン選手権大会」決勝大会出場など)

このような地域の様々な方との関わりや子ども達とのふれあいを通して生徒達が飛躍的に成長できました。



地域に愛される場所

ビオトープ委員会の児童は、ビオトープの専門家に話を聞くことで、「ビオトープとは何なのか」「生き物にとってのビオトープの役割」について理解を深め、「これから自分たちにできること」を自分事として考えることができました。そして、「まずは自分たちがビオトープのことをよく知らなくてはならない」という思いをもち、ビオトープの生き物や植物について調査を進め、紹介カードの作成やビオトープコーナーの設置に主体的に取り組みました。新番丁小学校の児童だけでなく、一緒に整備に取り組んでくださった地域の方にとっても大切な場所にしていくことを目指して、地域の方と一緒にできることを企画、実践していく予定です。

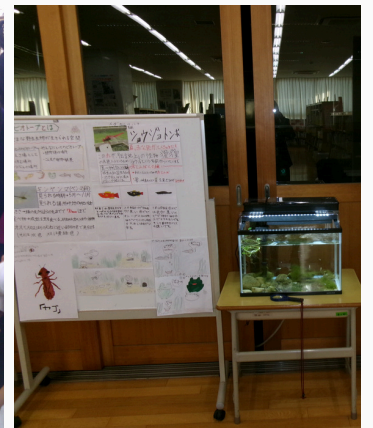
学 校 高松市立新番丁小学校

助成額 100,000円

タイトル 人と人がつながるビオトープ

プロジェクト概要

これまで2年をかけて地域のコミュニティ協議会や保護者(PTA)の方々の力を借りながら整備してきた校庭のビオトープについて、今後は児童自身の関心を高めることをねらう。「ビオトープを自分たちの力で素敵な場所にしよう」という思いをもち、主体的にビオトープの環境づくりに取り組めるようにしたい。



平和を祈って、交流

県外の中高校生との交流を通して視野が広がると共に、世界各地で紛争が起こっている今、改めて「平和」の大切さを議論することができました。短い時間ではありましたが、笑顔溢れる交流となり今もなおSNSなどを通じて交流は続いています。

地元の小中学生との交流では、思った以上に地元の小中学生は高校生との交流を楽しみにしてくれており、小中学生の対応をしている高校生が、臨機応変に対応する姿や笑顔で気配りする姿を見て、互いの成長を感じることができました。地元瀬戸内ばら会の方々も来て下さり、地域における世代間交流が今後の地方創生には欠かせないと感じています。

学 校 香川県立高松高等学校

助成額 100,000円

タイトル 香川県高校生交流事業と地域の小中高生への伝達

プロジェクト概要

混沌とする国際情勢の中、第二次世界大戦中に命のビザを発行した杉原千畝の母校である愛知県立瑞陵高校の高校生と妻である幸子の母校・高松高校の高校生が、「平和」に関する現地交流を行う。そしてその活動や想い、「平和」への祈りを込めて、本校生が母校の小中学校に連絡し、地域の小中学生と共有、交流する。また本校を中心として高校生にも伝達を行う。





夢を持つ大人との出会い

不登校の子どもたちにいろいろな職種で夢を持って生きる大人と出会わせられたことは大きな成果だったと思います。講師の方々には体験活動だけでなく、生き方や仕事に対する思いも語っていただき、子どもたちが真剣に、また、楽しそうに話を聴いていたことがとても印象的です。体験活動に際して講師の方々には、教育支援センターに集まる子どもたちの特性や学年による発達の違いだけでなく、これからの社会で生きる子どもたちのことも考えて活動内容をご提案いただきました。

これまでの体験活動とは違った視点で子どもたちにかかわってくださり、改めて、学校以外の世界とつながることや社会全体で子どもたちを育てることの大切さを感じました。



学 校 フレンドシップ実行委員会

助成額 100,000円

タイトル フレンドシップ事業
「みなみのみらい!プロジェクト」

プロジェクト概要
不登校の小中学生を支援する高松市教育支援センター「みなみ」で通常行っている「造形活動」「料理活動」「体育活動」などに地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、作品づくり等を行う。夢や願いをもって働く人の思いに触れることで、自分と社会とのつながりを感じ、将来について考える一歩となる活動にする。

卒業するあなたへ

昨年よりはるかに内容の濃い、充実したイベントを行うことができました。香川県政策部地域活力推進課の方々にもご登壇いただきました。お金に関する知識はもちろんのこと、当初の目的であった、「公」も「私」も含めて、周りのたくさんの大人たちが「みんなのことを応援してくれているんだよ」というメッセージを、卒業を迎える高校3年生に十分伝えることができたと思います。

あらためて多くの大人たちに見守られて高校生活を送れたことを実感してもらい、ふるさと香川を心の中で温め続けてもらいたいです。

詳しくはこちらの記事にも▶

「香川県尽誠学園高等学校で高校3年生を対象に『社会に羽ばたく前に知っておきたいお金のこと』と題して講演しました」



学 校 尽誠学園高等学校

助成額 90,180円

タイトル 「社会に出る前の金融教育」講座で
高校3年生の香川愛を高めるプロジェクト

プロジェクト概要
一般社団法人日本金融教育支援機構による金融教育ワークショップを受講し、卒業後のお金のトラブルを回避して幸せな人生を送ることができる力を身につける。ワークショップには地元の金融機関にも協力してもらい、将来香川の発展に貢献できる人材の育成を目指す。



A photograph showing two female students in school uniforms and face masks. They are in a clothing store, looking at a brown sweater hanging on a rack. The student on the right is holding the sweater. The student on the left is holding a yellow bag. The background shows other clothing racks and store lighting.

そこから子どもたちの考えるエコ活動は内容が具体的なものになりました。「がまん」するエコ活動になっていないか、「楽しい」エコ活動になっているか、などと考える視点が変わってきました。子どもたちが本当の意味で持続可能な社会を作るために、自分ができることを考えられました。

小学校家庭科「消費生活・環境」の学習において、自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方を理解するため、サーキュラーエコノミーを実現する企業や社長さんとの出会いを通し、持続可能な社会の構築について自分の生き方を考える。

 info@sanuki-tellus.jp